

番号	10	平成28年度公共事業事後評価調書			担当課名[農地保全課]			
事業名	一般農道整備事業			事業主体	静岡県			
箇所名	うえの いかんど 上野筏戸			市町名	浜松市			
事業概要								
受益面積	53.5ha	採択年度	平成8年度	完了年度	当初	平成10年度		
					実績	平成22年度		
事業費	前回	1,363百万円 (H22計画変更時)	実績	1,433百万円				
事業量	農道工 延長1,750m 車道幅員3.5m (全幅4.0m)							
事業の目的・必要性								
<p>本地区は浜松市天竜区春野町東部に位置し、山林に囲まれた山地にある。          基幹農作物のお茶を中心に営農をしているが、地区内にある農道上野線、町道田黒五和線は地区周辺部を迂回する線形で距離が長い。また、幅員も狭くため、農産物の搬出、資材の運搬に不便をきたしていた。          このため、県道春野下泉停車場線と農道上野線の南北間を結ぶ基幹農道の整備を行い、農産物の搬出、生産資材の搬出入を容易にし、流通機能の改善を図るとともに、集落間を結ぶ生活環境の向上を図る。</p>								
事業の効果等								
費用対効果 分析結果	前回 計画 変更 (H22)	B/C	総費用	14.80 億円 事業費：14.64 億円 (再整備費等：0.16 億円) (関連事業費：- 億円)	総便益	17.92 億円 食料安定供給確保効果：16.80 億円 (農業持続的発展効果：- 億円) (農村振興効果：1.12 億円) 多面的機能発揮効果：- 億円	基準年	平成21年
	事後	B/C	総費用	15.23 億円 事業費：14.12 億円 (再整備費等：1.11 億円) (関連事業費：- 億円)	総便益	21.64 億円 食料安定供給確保効果：20.17 億円 (農業持続的発展効果：- 億円) (農村振興効果：1.47 億円) 多面的機能発揮効果：- 億円	基準年	平成27年
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化          ・走行経費節減効果の算定における人件費については、国土交通省のマニュアル単価を使用することになり、総便益が増額となった。</p> <p>2) 事業効果の発現状況          &lt;食料安定供給確保効果&gt;          ・農道の建設に伴い、農業輸送に使用する車種の大型化（軽トラックから小型トラック）が可能となり、経路の短縮、走行速度の上昇等の改善が図られ、事業実施前に比べ地区内における農業輸送総時間が4,351時間の減少となった。</p> <p>&lt;農村振興効果&gt;          ・農道の建設により、集落から県道等へのアクセスが良くなり、事業実施前に比べ日常生活における移動が3,573時間の減少となった。</p>								
事業により整備された施設の管理状況								
・道路の維持管理については、施設管理者である浜松市によって適正に行われている。								

## 事業実施による環境の変化

- ・共同茶工場への出荷、ほ場への通作において、軽トラックから小型トラックに移行するなどの改善が図られ、また、輸送経路が短縮した。これらにより、輸送に掛かる労務、経費などが削減され、物流の効率が向上した。
- ・事業実施前は、当地区の農道は狭小なため、乗用型茶園管理機等の導入が進んでいなかったが、本農道が完成したことにより、機械の搬入が可能となり、作業効率が向上した。
- ・作業効率の向上により生じた時間を活用して、事業完了後5年間で受益地内の耕作放棄地を約1ha解消した。
- ・本農道により、本地区内に点在する集落（五和、上野、筏戸、田黒）が連結され、県道春野下泉停車場線への接続も容易になることから、買い物などの日常生活の利便性が向上した。

## 社会経済情勢等の変化

## (1) 地域社会の動向

- ・浜松市は、平成17年7月に12市町村が合併し、平成19年4月に政令市に移行した。
- ・浜松市の産業別就業人口は、平成22年総就業人口は40.0万人のうち、第2次産業は13.7万人、第3次産業は24.6万人で、総就業人口の約95.8%を占めており、1次産業は1.7万人となっている（平成22年国勢調査より）。また、平成7年度以降の経年変化をみると、第1次、第2次産業は減少傾向にある。

## (2) 地域経済の動向

- ・当地区の状況  
熊切川流域のこの地区は、農業収入の90%を占めるお茶のほか、自然薯が栽培されている。本農道にほど近い越木平地区では、能力の高い緑茶加工施設が整備され、茶の栽培管理から製茶加工まで一貫した生産が図られている。また、越木平を含む周辺地域では、茶園整備が進展し大規模集約化が進んでいる。
- ・地域農業集団の育成  
春野町は町内の茶工場を核とし、個別農家の意向を踏まえ農用地の利用調整や農作業の受委託、活発に行われており、認定農業者への農用地の集積、農業機械や施設の共同利用や農作業委託を通して地域農業の活性化と高生産性農業の確立を推進している。
- ・遠州山のお茶  
春野茶は清流気田川に流れ下る山間の茶畑で、清浄な空気に育まれているため、病虫害の発生も少なく、まろやかなうまみとほどよい渋み、さわやかな香りが特徴とされている。  
近年は「遠州山のお茶」としてブランド化が図られており、「グリーンティ・ツーリズム」としても展開されている。また、有機茶の栽培によるブランド化に向けての取り組みも行われている。

## 対応方針（案）

## (1) 評価結果

- ・事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。
- ・農道の新設により乗用型茶園管理機等の大型機械の運搬が可能となり、当地区内で行われている地域農業集団の育成に大きく貢献している。
- ・地区内の集落間の往来が容易となり、生活環境が向上した。

## (2) 今後の課題等

- ・本事業により地域の基幹的な農道が整備されたことから、地区内営農における産地化を強化する生産基盤の充実を目指す必要がある。
- ・大型農業機械の稼働が可能となる園地の増を図るため、支線農道の更なる整備が必要である。

## (3) 同種事業への反映等

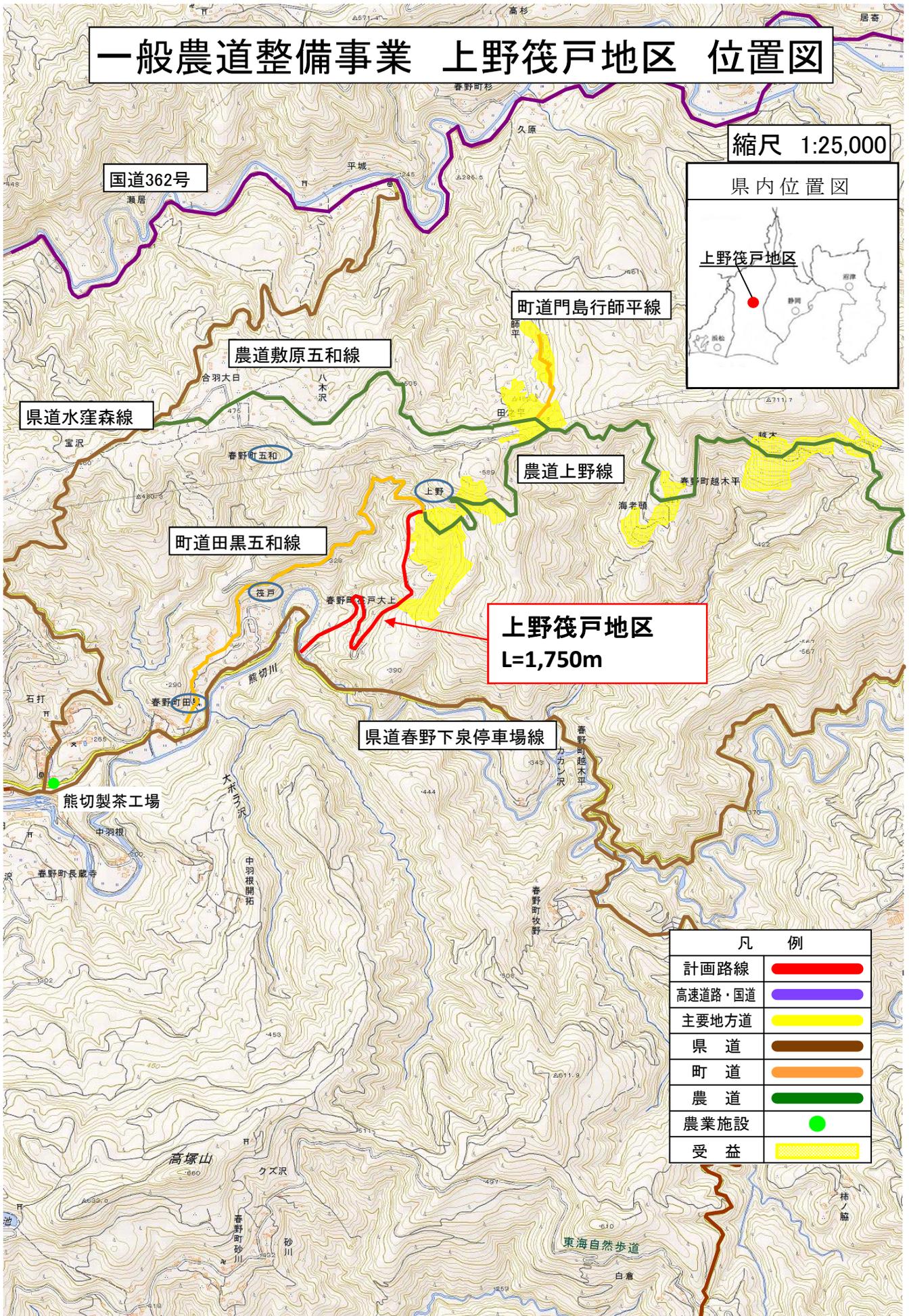
- ・農業輸送の効率化を図るため、集落、農地、拠点施設、交通拠点を効果的に接続する基幹農道の整備と合せ、支線農道や用水整備等も含めた総合的な整備を推進する。

# 一般農道整備事業 上野筏戸地区 位置図

縮尺 1:25,000

県内位置図

上野筏戸地区



上野筏戸地区  
L=1,750m

凡 例	
計画路線	
高速道路・国道	
主要地方道	
県道	
町道	
農道	
農業施設	
受益	

●事業効果の発現状況

農道の完成により地区内の農作業の効率化に寄与



事業実施前

町道田黒五和線(幅員が狭小)



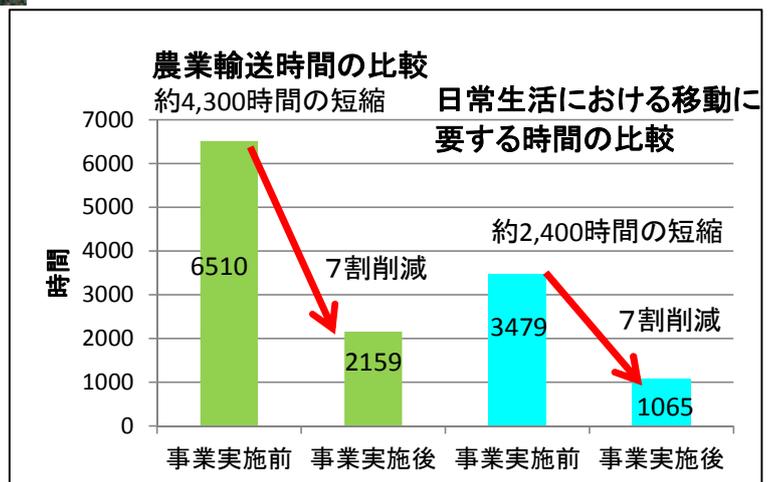
事業実施後

幅員が広がり車両の大型化が可能になった



事業の効果

- 1 農業輸送時間の短縮
- 2 日常生活における移動に要する時間の短縮



## ●事業実施による環境の変化



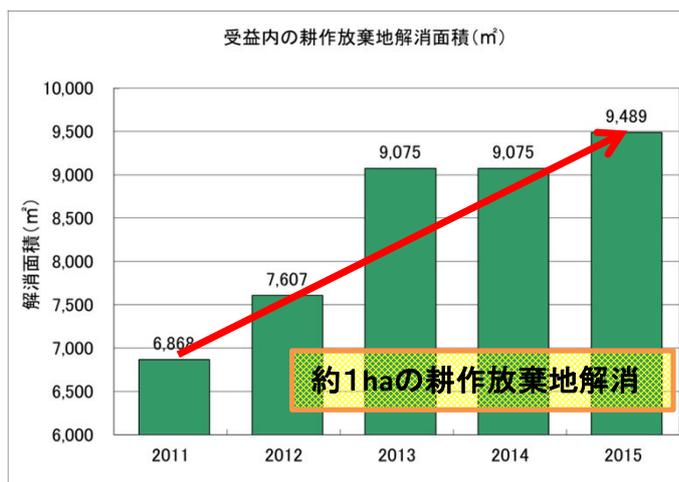
小規模農家の集団化による農作業や乗用型管理機の搬入が可能

## ●社会経済情勢等の変化

### 茶のブランド化への取組



### 耕作放棄地の解消に寄与



### 熊切製茶工場(農業拠点)



